

議 長 受付番号第4号、吉田功君の一般質問を許します。登壇願います。

3 番 吉 田 議長のお許しを頂き、一般質問をさせていただきます。受付番号第4号、質問議員、第3番 吉田功。件名、松田町に係る道路の整備について。

要旨。本年1月27日、南足柄市と静岡県小山町とで、富士・足柄道路トンネル建設促進期成同盟会が発足しました。大井町では紫水大橋から国道255号への道路の工事が進んでいます。開成町では県道720号（怒田開成小田原線）の整備が考えられているとの声を聞いております。松田町では、将来に向けて、国や県と協力しながら、どのような道路整備を考えているかを、お伺いいたします。

1点、国道246号厚木秦野道路は、厚木から新秦野インターチェンジまでバイパス路線として計画されています。新秦野インターから先についてはどのようなお考えでしょうか。

2点、酒匂川左岸道路整備に関する進捗状況をお伺いいたします。

3点、駅周辺及び町内の道路整備について、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

以上、御回答をよろしくお願いいたします。

町 長 それでは、吉田議員の御質問に、順次お答えをさせていただきます。

国道246バイパス厚木秦野道路につきましては、246号線の慢性的な交通渋滞を解消するとともに、災害時等に246号線を補完する機能を持ち、地域経済の発展に大きな効果をもたらすものとして期待される総延長29.1キロの計画路線でございます。現在、工事等の事業が開始されている区間は、そのうち13.6キロメートルであるため、早期開通に向けて、松田町を含めた3市3町1村で構成する国道246バイパス建設促進協議会にて、国への要望活動を年2回ペースで行っております。

それでは、1つ目の御質問にお答えいたします。246号との合流地点から以西への松田町内における道路事業計画に関する趣旨と思料いたしますが、当該地域について、河川や山などの地形上、新たな路線を設定することが難しいこと。さらに、蛇塚交差点及び寄入口交差点先の分岐から県道710号神縄神山線に

出ることができ、246号と県道のダブルネットワークによる補完性は保たれているものと考え、現時点では、町の町道整備計画等に位置づけられている計画路線はございません。ただし、令和9年度に全線開通を予定している新東名高速道や、御質問の246バイパス整備の進捗など様々な要因を踏まえて、さらなるバイパスの延伸についての構想や、246号の現道の拡幅などを含めた検討を行ってまいります。

続きまして、2つ目の酒匂川左岸道路整備に関する進捗状況にお答えいたします。小田原方面から北へ伸びる当該路線、県道711号は、県道708号線までは、本町区域において、以前、酒匂川左岸縦貫道路という名称で、足柄大橋東交差点から下原地区を通過して、川音川を渡り、酒匂川左岸を通過して山北に至る構想があり、都市計画決定に向けた検討を行うため、平成16年、17年度には、延伸の実現性に係る調査を実施いたしましたが、川音川への架橋、小田急線の立体交差、新十文字橋への高架での接続、さらには国道246号への効果的な接続方法など、財政、技術、環境面等、様々な課題があり、早期の実現は困難という判断のもと、広域的な観点から計画を断念し、構想のままとした経緯ありました。

現在は、松田郵便局前から新十文字橋下を通過し、川沿いに山北町へ至る酒匂川左岸堤防道路として、町道整備基本計画に位置づけており、神奈川県と整備計画に基づき、河川占用等について調整しているところでもあります。また、新十文字橋下の見通しが悪い交差点区間については、すれ違いを容易にする改良工事を、令和7年度予算に計上しております。

3つ目の御質問にお答えをいたします。6年前の平成31年3月に策定いたしました新松田駅周辺整備基本構想・基本計画の中で、町道3号線（ロマンス通り）、5号線（南口）、6号線（馬車道通り）の主要な道路や、新松田駅南北自由通路、JR南北自由通路など、関連道路の整備について位置づけています。駅周辺整備を中心とした基盤整備に合わせて、歩行者の安全確保や周辺のアクセス道路の円滑化を図るため、再開発事業の進捗とともに、今後も検討してまいります。

また、町内の道路整備は、平成27年に策定いたしました松田町町道整備基本計画や上位計画であります都市マスタープラン等に基づき、東名高速道路や国道246号、255号、主要県道など、高規格道路が集中する本町の特性を踏まえ、国・県等との関係機関と連携を密にし、必要に応じた対応を行ってまいります。

以上でございます。

3 番 吉 田 丁寧な御回答ありがとうございます。特に1点目、さらなるバイパスの延伸についての構想や、246号線現道の拡幅などを含めた検討を行うという前向きな回答を頂いて、大変ありがたいと思っております。それでは、再質問に入らせていただきます。

今お話ししました246号のバイパスについて、今現在、新秦野まで計画され工事が進んでいるところでございます。この道路が、この先ですね、寄地区を通過し、トンネルによってこの松田山を抜けて、松田惣領地区の国道246号とつながるようなことになれば、寄地区は新秦野インターから5分程度、渋沢駅から10分、新松田駅・松田駅からも10分程度の場所となります。これは、消防車・救急車等の到着が早まり、救急・救命の力が向上します。今現在、先ほど御回答の中にありましたけれども、湯の沢から籠場までの国道246号線と県道710号線は、過去の経験から、地震とか風雨災害のときに通行ができなくなる可能性があります。また、国道255号線、県道711号線ともアクセスできるようになれば、小田原市、南足柄市、開成町、大井町も新秦野インターにアクセスが容易となります。このようなことを考えると、松田町1つではなかなか難しいことではございますが、関係市町と協力して国や県に働きかけをする価値はあると思います。それも、もう本当に1年、2年という考え方ではなくて、それこそ30年、50年、場合によっては100年先を見据えたところで動き始めてもいいのではないかと思います。いかがでしょう。

まちづくり課長 お答えをさせていただきます。今、議員のおっしゃったですね、大きい、非常に大きい考え方にのっとった構想かと思えます。答弁のほうでは、させていただいたとおり、技術面的な話はさせていただきましたけども、例えばダブル

ネットワークになってる。でも、そこが災害時にはどうなのか。確かに、両方の県道・国道がですね、それぞれ被災したことがございます。おっしゃる部分はごもっともなんですけど、246のバイパスの、今の計画というのが、説明したとおり、新秦野インターチェンジというのが、仮称で計画はされておりますが、そこまでの、まだその事業化には至っておりません。もう少し秦野寄りというか、もっと東寄りというんですかね、そういうところで今、事業を進めていただいています。

大きい考え方すると、将来、30年、50年、100年という大きい思想の中では、まず東名がある、新東名がこれから通る。で、246、さらに県道もある。でも、それでも、どういうふうな道路の交通状況になるかというのは、なかなか読めない部分があります。当然その中では、いろんなまちづくりも場所場所によって変わってきて、交通の流れも変わってくることが想定されますので、大きい考え方として、何も考えを持たないのではなくて、やはりそういった考え方も持ちながら、周りの市町村のお話もありますけども、どう連携を組むかというの、また広域的にも検討をしていく。常にそういう視点を持ちながら検討していくことは必要と、担当としても考えます。

3 番 吉 田 大変ありがとうございます。私も、簡単に実現するようなことではありません。ただ、もう本当に長いスパンを持って、そのように常に、これから先をどうするかというようなことを見据えて、考えておく姿勢というのは大切なことかと思います。どうもありがとうございます。

2点目につきまして、酒匂川の左岸道路は、健康福祉センターのところまで来ています。かつては、今御回答にあったように、県道712号、新十文字橋にアクセスすることを計画されてたとも聞きますが、今御回答にあったとおり、様々な理由で計画が断ち切れとなりました。この酒匂川左岸道路が、せっかくあそこまで来ているのだから、その先のこともちょっと活用できるように考えていくのも一つ大切なことなのかなと思っています。この酒匂川左岸道路が国道246号につながるようになれば、さきに1点目でお話ししましたがけれども、本町のみならず、近隣市町の発展に大きな力となると考えております。そして、

またその枝道路が、沢尻のあたりから新松田駅南口、町道5号線、南口のほうにつながり、県道711号とアクセスすることになったりすれば、新松田駅周辺の自動車の渋滞の解消とともに、集客量の増加も期待できます。近隣の、これもやはり本町だけでなく、近隣の市町と協力して、県に働きかけるというような考えはいかがでしょうか。

まちづくり課長     引き続き御提案を頂き、ありがとうございます。まずは答弁書にのっとった、もう少し細かいお話をさせていただきますと、議員がおっしゃるようなやっぱり考え方の構想ですね、以前はその縦貫道路として新十文字橋、さらに246というところを目指したものが計画化をしようとするですね、いろいろ検討した経緯というの、今回、御質問頂いて、私もいろいろ勉強させていただきました。やはりですね、まさにおっしゃるとおりで、その駅前の話も含めて、全体のその道路網というのをいろいろ考える中で、ただ、先ほど申した、上がって行きますよね、そういう上がって行く、その1つ目には財政的なお話も非常にあって、これを単純に町道で整備できるわけがない。そういった中で県も含めてですね、国・県も含めていろんな調整、検討を繰り返していられてます。本当、古くは平成の1桁台ですね、いろんな検討をして、県ともいろいろ打ち合わせをした経過等々がございました。

そのような中、平成…答弁書にもお話しさせていただいたとおり、平成16、17年で、これが今まで構想描いているけども、実現に向けては、道路は構想から計画段階に入る、やっぱりそれがあると思います。その計画化ができるかというところで、この構想についての委託をしております。そうした中でですね、先ほどの答弁にもありましたとおり、財政的なものと、その費用対効果で、あとはその道路が、完璧に通過、要は全部通過しちゃいますよね、上で。そうすると、設置というのをまたアクセスでやると、また土地が削られる。いろんなもの、プラス全部がその道路でいった場合に、河川沿いが計画含めてどうなるのか。こういった環境も含めたお話があったようでございます。そういった財政面も非常に大きい話かとは思いますが、そういったものをですね、当時調査としては、北部延伸の整備の研究会というふうになづけてです

ね、山北町さんと一緒に検討した経緯もございました。ただ、この結果として、非常に難しいんだけど、やはり大きい、先々の考え方というのを先ほどもおっしゃっていただきました。全部手を下げたわけではないんですね。計画化は一度断念しています。ただ、構想として手を下げるのではなくて、今現在も、町の町道として整備ができてないんで、入ってないんですけども、例えば町の都市計画マスタープランとかを見ていただきますと、構想としての線は残してございます。今現在はそういう状況にございます。

3 番 吉 田      ありがとうございます。今、やはり現在、大きなそういう道路というものが、ちょっと松田の町なか停滞しております。そういうことでは、本当に長い目で見て、ちょっと松田町の構造をどうするのかっていうようなプラン、まずは道路を中心につくり、その中でいろいろな建物ができていく、というようなことが大切なのかなと思います。先に建物ができてしまいますと、その後、道路をつくれといっても、なかなか道路はつくれませんし、道路をつくることによって、いろいろなインフラが整備されていきますので、今、課長がお答えいただいたように、ずっと心にとめていただきながら、プランのほうを立てていただけるとありがたいのかなと思っております。

それでは、3点目でございます。町道3号線の、新松田駅から松田小学校に抜ける道路ですけれども、町道3号線、町道3号の特に宮前・沢尻地区、今回の松田町の周辺整備の中では、新松田駅周辺整備の中では、ちょっと計画は立っていましたが、今後どのように進めていくように計画されているのかということです。これは、幅員が12メートル道路を今後計画されている、前の計画ではそのようになっておりましたけれども、そのように考えてよろしいのか。これはやっぱり、やはり10年先、20年先、30年先でいいんですけども、例えば道路なんかをつくるときには、やはりそれぞれの地主さんの代替わりなどをきっかけに、いろいろと御協力いただくというようなこともあります。そういうことを考えると、かなり前から、そのときに向け、そういうときに向けて計画を依頼していくようになると思うんですけども、ここもやはり12メートル道路と今考えててよろしいのでしょうか。

まちづくり課長     ただいまのお話は、駅周辺の道路の計画というのを、どのように考えているか。これは基本構想・基本計画の中には定められておりまして、今おっしゃっていただいたとおり、主要道路として、先ほどおっしゃっていただいた、今、再開発の話もある真ん中を通る町道3号線、ロマンス通り、そのこのぶつかりのところを南北に通っている町道の6号線、また南口ですね、に走る町道5号線、こちらの路線についての位置づけは、幅員を12メートルを目指して検討していくということで、町としては整理をしております。

まず、直近といたしましては、これは再開発の事業に当然、絡む話なんですけれども、住民説明会等々をさせていただく中では、まず、このロマンス通りが再開発の区域から、その先も含めて、どのようになってしまうのかという御質問を多々頂戴しております。こちらについてはですね、そのときの説明会でも申し上げている内容にはなるんですけども、当然、広がってところが急に狭くなってってということであると、交通に支障が起きます。そうならないように、今、線形も含めて、物理的には絶対広げなきゃいけないですから、これを当然、12メートルっていうのを1つ目標にはやっていくんですけども、その用地の交渉も含めて、いろんな線形を検討しておりますけども、こちら辺についても、より、今の現段階でこうしますっていうのはなかなか申し上げられなくて恐縮ですけども、検討を深めさせていただいているということで御理解頂ければと思います。

そのほかの道路ですね、町道の5号線、先ほど南口やら6号線、こういった路線でございますけども、基本的には一定の拡幅、例えば南口の町道5号線なんていうのも、駅広を含めて今なかなか止まっている状況ありますけども、何とか少しでも前に進めていきたい、幅も広げていきたい。この考え方は当然、持って、事業化、予算化を続けております。町道6号線は一定程度の幅員はあるんですけども、これが、駅前も含めて、このまちづくりがいろいろ進んでいく中で、さらなる拡幅が必要な場所が、どういうふうにあるのか、安全面も含めて当然検討をしていかねばならないと考えています。

ちょっとずれる話だったら恐縮なんですけども、町道の整備に関しては、当

然道路事業としてやっていく中で、都市計画決定という一つの手法がございます。その手法を、松田町でなかなか今、取ってきていないことは、道路としては事実です。再開発事業としては、今回、都市計画決定を行いたいという説明はしておりますけども、やっぱりこの松田町が道路として、いろいろ都市計画決定も含めて難しいのは、もう多分、皆さんお分かりだと思いますけど、この町域の中で平地が割合として非常に少ない。昔からやっぱり家が張りついている。その中に、鉄道があり、川があり、主要な道路がこれだけ通っている、それだけで、交通のインフラっていうのは非常に、ある意味、豊富な場所ですよ。そこにさらに都市計画道路としての決定をしてですね、やっていくのがどうかという、多分バックグラウンドあるのかなというふうには、私は、すみません、ちょっと個人的な話も踏まえて恐縮ですけど、そのように考えてます。いずれにしても、12メートルという目標を立てている中では、一気にはいきませんけども、順次整備を進めていきたいという考え方でございます。

3 番 吉 田 丁寧な御回答ありがとうございます。例えばですね、駅周辺のところをこうやって見渡しますと、県道711号線、文久橋のほうから来る道路ですけれども、そのＪＲ御殿場線のガードのところ、鍵和田歯医者さんのあたりからＪＲ御殿場線に沿って松田駅まで道路ができたとしたら、これは、県道から県道712号線へのつながることになりますけれども、道路ができたりすれば、駅周辺及び県道72号線、旧246号線の県道ですね、も含めて、その渋滞の緩和も期待できるのではないかと思います。簡単に言えば、こちらの御殿場線に沿って、道路が駅に向かって、ＪＲの駅に向かってできたとすれば、結構この前の旧246号の朝の渋滞なども解消できるのではないかと思います。その場所というのは、鍵和田歯医者さんのところから、ＪＲの松田駅のところというのは、ほとんど住宅というのはいないんですね。町の駐車場と、ちょっと今使っていないＪＲの引き込み線と、そういうような場所なので、そんなところに道路ができれば、かなり渋滞などが解消できる、また利便性が大きく上がる道路と期待できると思っています。

このように、今度は松田駅側のところがですね、県道、それぞれの県道で囲



まれてしまえば、今、課長が言われたような再開発っていうのも、なかなか、しやすくなるのかなと。本当に今日、明日の問題じゃないですけども。それから、今、朝は、いわゆる金時座通りのところですね、農協さんの前の通り、石川肉屋さんから農協さんの前を通過、松田駅に行く通りっていうのは、朝、通行止めになってますけれども、進入禁止になってますけれども、そういうところの逆側から、道があって入れるようになれば、結構あそこの駐車場なども使いやすくなるんじゃないかというふうに考えてます。そのように、課長がお話しになられたとおりですね、大きな意味で、それこそ何年、何十年か先までも見越した松田町のデザインっていうのも、ちょっと考えていくっていうのは必要なんじゃないかと思います。

それから、じゃあ、それでは次の、何かちょっと細かい、別の視点からの質問なんですけれども、松田町の家屋の新築状況っていうのは、増えているのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。数字、幾つとかじゃなくて結構です。という感覚は、僕は持ってるんですけども。

まちづくり課長　　すみません。じゃあ次のお話に行く前にですね、せっかく最後、御提案頂いたので、いいですか、1点だけ。御殿場線沿いにガードのところからというお話は、御提案として、ありがとうございました。まず、この駅前の再開発事業の中で、ガード下の話も、県と協議しながら進めているということは、今までも御案内のとおりだと思いますけども。これが、またJRのほうというのがですね、今回この新松田の北口が再開発として事業が推進された後に、さらにそのJR側のほうも、いろいろな土地利用というものの考え方は出てくる可能性は、十分にあると思っています。そういったまちづくりを考える際には、今おっしゃっていただいたようなお話っていうのも、検討材料として入っていくのかなと、担当としてこのように考えておりますので、ありがとうございます。すみません、別件ということで。

全体としての住宅の需要でございますけども、開発っていうのは年何件か、2件、3件来る中で、そこに10戸程度の開発物件で新築の区画は整備がされております。実際その開発の区域の中に全ての家が建っているかというのと、ここ

がなかなかちょっと厳しいところではあるんですけども、ただ、先ほどおっしゃっていただいた、その代替わりも含めて、新築の家が増えているんじゃないかという感覚は、見ていただいてのとおりですので、そのとおりだと思います。

3 番 吉 田 大変ありがたい回答、ちょっとみんな町へのね、発展が、モチベーションが上がるような回答で、ありがたいと思ってます。松田町の、こうやって私もこうやって歩いてみると、かなり新築の家っていうのは、ここ増えてきてるんじゃないかと思います。ただですね、特に町屋のほうなどの上ですと、ところでは、かなり増えてはいるんですが、地権者がそれぞれの御都合で進められるようなので、それぞれ家が建ったエリア、それぞれの家が建ったエリア、新しく家を建てたのに道路と道路がつながってないと。それぞれの都合でつくってるんでつながってないと。せっかく新しく開発されていながら、行き止まり道路というのが多く見られます。このような開発について、道路に関して、協力してもらうような調整というのは行っているのでしょうか。

まちづくり課長 御指摘ありがとうございます。今おっしゃった開発っていうのが、先ほど私も少しお話させていただきましたけども、町内に特に南部地域のほうで開発が多うございます。その際は、まず都市計画法にのっとった開発協議というのは県のほうでしっかり審査をいただくわけですけども、その前段としてですね、松田町にはまちづくり条例がございます。これは平成10年、11年ぐらいのですね、いわゆる、バブル開発の、ある程度抑制、乱開発を抑制し、適正な開発整備を促進するみたいな、そういうもとの条例でございましたけどもそれに基づく松田町として協議をしております。その中で、当然道路計画等もいろいろ全体として見させていただくんですが、これは相手様との協議になります。先ほど申し上げたとおり、都市計画道路とか、法定としての大きい路線以外については、我々としてもどうしてもお願いベースは出ないんですけども、やはり町道整備計画として考えている、まちづくりとしての考え方として、我々も道路管理者として協議はさせていただいているということはお話をさせていただきます。

3 番 吉 田 ありがとうございます。今、やはりこうやって見ていて、こことこの道路

と道路、家が建つ前につなげておけば、いろいろと合理的なのになとか、そういうのは思うところは多々あります。まだ、これからやはりちょっと今、僕は家を建てるのにはなかなかいい場所ではないかと、松田町は思っております。そういうことでは、その辺のところを、うまく調整していただければ、結構通りやすい道になると思います。ほかの市の話で恐れ入りますけれども、伊勢原市の中央信用金庫伊勢原支店から市役所付近につながる道路というのは、800メートルほどあるんですけれども、着工から30年以上かかってます。それで、あと数十メートルで完成するようですけれども、道路づくりというのはそのくらいの期間で考える必要があるのかなと思ってます。ぜひ長期の計画をもって、まちづくりを進めていただけたらありがたいなと思います。

以上をもちまして質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議

長

以上で受付番号第4号、吉田功君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。15時10分より再開いたします。

(14時56分)